

### Ⅲ. 高校二年必修総合人間科

## 生徒と教師のチーム・ティーチングによるテーマ授業

楨本直子

**【抄録】** 総合人間科では、生徒の主体的、能動的な取り組みが求められる。高校二年の学年テーマである「国際理解・人権・平和」を学ぶに当たって、生徒5～8人と指導教官1名でチームを組み、生徒の手によるテーマ授業を実施した。教師からの講義ではなく、生徒自らが教材研究をし、学習指導案を作成する過程で、学年テーマに対する多様な迫り方や、理解の深まりが見られた。また、授業者となることでプレゼンテーション能力が高まった。

**【キーワード】** 生徒と教師のチーム・ティーチング    テーマ授業    国際理解    人権    平和  
民族    自然    授業実践

#### 1. はじめに

昨年度の高校1年の総合人間科は、個人研究を基本とし「学ぶことを学ぶ」を目標に展開された。自分の興味関心を探り、問題（研究テーマ）を発見、研究の方法を身につけることをめざし、一定の成果を得た。（楨本直子他「いのちのネットワークー生命と環境を考える（総合人間科実施初年度学年報告）」96年度本校紀要第41集）

第二年度の指導計画立案に当たっては、昨年度培った自ら問題提起し追究していく姿勢を大切にしながら、一つの問題を複数の視点で検討し、論理的に議論していく集団での学び合いに発展させることを念頭においた。自分の考えを発信し他者に伝えるとともに、他者の考えや意見にきちんと耳を傾けていくプロセスで、さまざまな価値観や考え方を理解し、自己の考えを築き、深めていくことを試みた。

昨年度の高校二年生で行った教官チームによるTT授業の実践（山田他「TT（教官チーム）による授業とディベートによる沖縄学習」96年度本校紀要第41集）の反省をふまえ、生徒が自ら授業者となり主体的に取り組む形に改善、発展させた。昨年と異なり、生徒達には一年間の個人研究による調査やその分析のノウハウが個人差はあるものの各自身についており、それを活かす方向で指導法を考慮した。

また、総合人間科の授業を単なる沖縄研究旅行の事前学習に終わらせず、学年テーマである「国際理解・人権・平和」を幅広くとらえられるようにするには配慮が必要であった。

#### 2. テーマ授業の形態

各クラスを生徒の希望するテーマ別に6グループに分け、それぞれのグループに指導教官を1人加えチームを編成した。学年担任団7名がそれぞれ同一テーマの2ないし3チームの指導に当たった。

#### テーマ授業 チーム一覧

A 組						
テーマ	1 班	2 班	3 班	4 班	5 班	6 班
人権	徳井	平松	長谷川	丸山	大口	楨本
国際理解	網屋住代子 石川あ衣 伊藤麻真 岡島明ずみ	井達瀬水 安川秋彦 水町山岸	雅子美恵 仁智博也 晋祐介	茂野藤川 兵衛山本	周光弥也 志紀靖理	伊藤藤丸 加藤西田 佐高藤口
平和						
民族						
女性						
自然						
メンバー						

B 組							
テーマ	1 班	2 班	3 班	4 班	5 班	6 班	
人権	徳井	平松	長谷川	丸山	溝口	楨本	
国際理解	青山昌史 船橋延江 三浦加子 山上丸昌	小澤后口 三野美名 宮村善徳 神谷飯	炭田上谷 森井後藤	孝広貴香 佐藤久美	内藤室戸 岩美川島 小川林	慶子里耶 摩梨人崇 大柴田大 柴田井	石橋村植 木長田鹿 田大柴田 井
平和							
民族							
文化							
自然							
メンバー							

C 組						
テーマ	1 班	2 班	3 班	4 班	5 班	6 班
人権	徳井	平松	長谷川	丸山	大口	楨本
国際理解	安達合野 河野服堀 三瓶	朋美修子 直一久陽	井美幸野 片京野 出久美 田村松	満美幸野 里野未帆 幸野未帆	柴高山口 富平吉渡 田水田渡	裕百一 章栄栄 兵光
平和						
民族						
女性						
自然						
メンバー						

授業テーマは、学年テーマである「国際理解」「人権」「平和」の三つは必ず行うこととし、残りの3チームは希望の多かったテーマを設定した。希望調査の際に提示したテーマ例は以下のようなものである。生徒一人一人に第3希望まであげさせ、教師側でチームを編成した。

国際理解（日米の考え方の違い、国際政治）  
 人権（民族差別、基地問題、安保条約・地位協定）  
 平和（現在の世界情勢、沖縄戦の事実と背景）  
 教育（戦争中の皇民化教育、アメリカ占領下の教育）  
 民族（歴史、宗教、年中行事）  
 文化（文学、伝統工芸、建築、音楽、舞踏、食物）  
 産業（基地経済、観光開発）  
 自然（気候風土と動植物、リゾート開発と環境破壊）  
 女性（朝鮮従軍慰安婦、米兵の犯罪事件）

（ ）内に示したものは、沖縄研究旅行の事前研究との関連である。昨年度の教官のTT授業では沖縄と結びついた沖縄の抱える問題をテーマとしていたが、今年度は単なる研究旅行の事前学習にしないことを明示し、沖縄にあまりこだわらずに幅広くテーマを扱うよう指導した。ただし、沖縄はこれらの問題が縮図となって現れているところなので、沖縄からテーマに迫る、具体的に起きている現象として沖縄の例を取り上げるなどの展開の仕方をアドバイスした。

必修の3テーマ以外で希望が多くチームが編成されたのは「自然」（3チーム）、「文化」（2チーム）、「民族」（2チーム）、「女性」（1チーム）、「産業」（1チーム）であった。生徒の希望では必修テーマが敬遠され、どのチームも第2、第3希望のメンバーが多くなった点が残念であった。また、1クラスでは、男子のみのチーム、女子のみのチームが編成され、チーム内のディスカッションから集団での学び合いを経験させる点では多少問題であった。

この授業の目的は、学年テーマである「国際理解・人権・平和」を多角的に検証できるように基礎的な知識を学ぶことであり、基本的用語の確認や歴史的事実や現状把握ができるような授業計画をめざした。

授業時間は1チーム30分とし、6月1日と15日の2回、各3テーマずつ実施した。大きなテーマの内容を30分でまとめることは難しいが、それぞれのテーマを深く追究して行くのは今後の学習であり、導入として考える機会を持つこと、問題提起をすることができればよいとした。

指導教官が担当のチームの授業に参加できるよう

に各クラスの授業展開はローテーションとした。

### 3. テーマ授業の指導

授業の事前準備には、総合人間科2回、計3時間を当てた。

＜テーマ授業にむけて その1＞ 5月18日  
 グループディスカッション  
 ①テーマについて どこに焦点を当てるか  
 項目とその内容  
 ②テーマ研究の方法 参考図書・文献  
 メンバーの役割分担  
 ③教材の準備予定 授業プリントの作成  
 補助教材の検討  
 (資料、写真、OHPシート)  
 ④授業構成 指導過程(順序、時間配分)  
 担当者

＜テーマ授業にむけて その2＞ 5月24日  
 学習指導案の作成  
 大テーマとサブテーマ  
 本時のねらい  
 指導過程(授業内容、留意点、事前準備)

チーム内でのディスカッションから授業計画を立てる過程では、かなり活発な意見交換がみられ、さまざまな教材研究・準備が行われた。昨年度の個人研究の方法がそのまま教材研究につながり、図書館での文献調査はもとより、インターネットの利用、クラスメートへのアンケートを実施しその分析から論じたり、身軽にフィールドワークへ出かけ(交通局、沖縄県事務所など)資料を入手してきた。

指導教官側も学年会で学習会を開き、各自の担当テーマに対しての指導方針、問題点を話し合い検討した。この授業は生徒と教師のチーム・ティーチングであると同時に、学年教師集団のチーム・ティーチングでもあり、教師間の問題意識の相違を知り、授業方法を研究する場となった。

#### 各指導教官の指導方針

＜国際理解＞ 平松良行

沖縄及びそれに関連することを現代の視点から探る

①国際理解に関するテクニカル・タームを調べる  
 最小限の用語は全員が知る必要

例；F/A-18 HORNET ゴウのオリ

日米安全保障条約

②沖縄の米軍基地 → MAP

東南アジアの情勢 → MAP

基地撤廃のために必要な努力・運動とは？  
 沖縄に基地が不必要になる国際情勢とは？

- ③貿易立国である日本  
 世界が平和でないと存立が不可能  
 その平和をどのように維持していくのか？  
 現在の米海軍のプレゼンス効果  
 →米国の負担も大 どうするのか？
  - ④相互理解を深めることにより  
 できるだけ摩擦・考えの行き違いを防ぐ
  - ⑤若者の立場から  
 もっと分かりやすく着手し易いアプローチがあれば模索してみる。
- その他；今回はグループ学習であるのでチームとしてある程度まとまりをもって活動をする

<人 権> 徳井輝雄

- 1) 討論テーマ
  - ①人権とは 日本国憲法のいう基本的人権
  - ②生存権と人権
  - ③どんなことを調べたいか
- 2) 人権問題への迫り方
  - ①人権侵害の例
    - 学校での校則や生活指導と人権  
 茶髪 ピアス タバコ シンナー  
 いじめ
    - 家庭での親子の関係
    - 国家と国民  
 警察、裁判所のあり方  
 沖縄ではどうか
    - 資本家と労働者  
 会社の中での人権 セクハラ問題
  - ②教育と人権  
 教育を受ける権利
  - ③日本国憲法と人権
  - ④子どもの権利条約
  - ⑤人権問題の歴史  
 イギリス市民革命 人権保護律  
 フランス革命 人権の宣言
- 3) 課題
  - ①各クラスどんなテーマで授業するか決定する
  - ②授業の概要を決め、分担

<平 和> 長谷川 弘

- 1) 「平和」チームでは主に「沖縄戦」の実態を研究し、そこから「戦前・戦後の日本」を視野に入れて、「平和」を考えていく。もちろん「沖縄戦」以外にも「平和」を追究していくアプローチがあるので、みんなの「研究対象」

をチームで話し合う。

- 2) 授業題目例  
 (過去の研究旅行のグループワークテーマより)  
 95年 沖縄戦—日本とアメリカを比較して—  
 皇民化教育と人権  
 94年 沖縄戦による集団自決の実態  
 沖縄戦における日本軍  
 戦争中と戦後を比べて  
 93年 沖縄戦での人々の暮らし  
 92年 住民の側から見た沖縄戦  
 91年 沖縄と各壕の実態  
 女子学徒看護隊について  
 南部での悲劇  
 沖縄戦による日の丸と天皇
- 3) 上記の生徒研究の視点をまとめると
  - ①沖縄戦 (歴史的事実確認 集団自決 学徒隊  
 アメリカからの視点 住民からの視点  
 日本軍からの視点 壕の実態)
  - ②皇民化教育  
 さらにその他の視点として
  - ③戦後日本、文部省、自衛隊などの沖縄戦の見  
 方なども研究するとおもしろい。
- 4) 発表するときには
  - ①広い意味・テーマのもとで「平和」を考える
  - ②戦争 (具体的には沖縄戦) を通して「平和」  
 を考える
  - ③沖縄戦の中でも「戦争中の教育」「慰安婦につ  
 いて」「集団自決」などテーマをしぼる  
 等の方法を考える  
 チーム内での調査・発表の役割分担

<民 族> 丸山 豊

- 1) 自分の動機、問題意識をまとめてみよう。
  - ①世界各地の民族問題 (旧ユーゴ、ユダヤ、パ  
 レスチナ、チェチェン、アイルランド問題な  
 ど) を高校生としてきちんと学びたいという  
 投書を読んだことがある。また、日本はこの  
 ような民族問題がないから幸せだ、平和だと  
 思ってしまう落とし穴がある。
  - ②日本には本当に民族問題は存在しないのか？  
 また、同じ民族でありながら異質化し、差別  
 してきた歴史はないか？
  - ③日本の民族問題、差別問題に目を背けては、  
 真の人権、平和、国際理解の学習にならない。
  - ④真の平和と平等を願うならば「互いの民族を  
 理解し合い、尊敬し合うこと」から始めなけれ  
 ばならない。
- 2) 日本の民族問題と差別問題とは？

民族；中曽根「日本単一民族国家」発言とは  
アイヌ民族  
日本人とは（港川人、古モンゴロイド、  
新モンゴロイド）  
在日韓国人・朝鮮人問題

差別；被差別部落問題 沖縄問題

3) 沖縄への差別とは何か

歴史にみる差別；島津による琉球侵略、  
琉球慶賀使の利用  
台湾出兵と琉球 ソテツ地獄  
廃藩置県と琉球処分 旧慣温存政策  
琉球独立論をどう考えるか

4) 授業の進め方＝指導案の作成

- ①何を取り上げて教えるのか
- ②どのように教えるのか
- ③授業を受ける側の興味、関心を起こさせるよ  
うな導入の工夫  
視覚に訴えること（プリントは避ける）  
プレゼンター、OHP、VTRの利用  
具体的な資料を劇化して朗読 など

<自 然> 楨本 直子

1) 全体ディスカッション

- ①テーマ「自然」のとらえ方  
学年テーマ「国際理解・人権・平和」の視点で  
（人間らしく平和に豊かに生活するためには自然環境は基盤。また、グローバルな  
視点で国際協力のもとに考えていかなく  
ては解決できない課題が多い。）

今、国際社会のキーワードは“環境”

「自然」とは何か（定義）

自然観の歴史的变化、「自然」のイメージ  
（参考；人間環境宣言、自然保護憲章、  
高校生の意識調査）

②人間と自然の関係

“開発”か“保護”か  
（リゾート法、リゾート開発の是非）

③テーマ「自然」で何を取り上げたいか？

- ・人間と自然の関係の歴史（自然観の変化）
- ・自然を知る（気候風土と動植物）
- ・危機の中の自然  
（現状分析と今後の課題、グローバルな視点へ）
- ・沖縄では  
日本全体からみた独自性（亜熱帯の自然）  
リゾート開発と赤土汚染  
環境保護運動（白保のサンゴ、マング  
ローブ林、絶滅危惧種）
- ・その他

2) グループディスカッション

- ①テーマの焦点
- ②授業内容の検討（項目と取り上げる題材）
- ③教材研究の方法、準備日程、役割分担

<文 化> 滝口 恵子

1) 「文化」の定義

文化＝人の営み（歴史そのもの、生活）  
・人類自ら自然に手を加え、築き上げてきた  
有形無形の全体。衣・食・住を始め、技術  
や学問、芸術、道徳、宗教などの生活形成  
の様式と内容を含む。

- 2) 幅広い「文化」の中から何を取り上げるか？
- 3) 何を問題提起するのか？

<女 性><産 業> 大口 悦子

1) 資料収集

各社新聞、ワシントンポスト、英文の雑誌  
沖縄県観光事務所への訪問など

2) 資料の比較検討

資料の読みとりから問題点を探る

3) 授業の観点

産業；農業（基地による制約）  
商業（リゾートと自然、ホテル建設）  
貿易（中継基地としての沖縄  
台湾や中国大陸との関係  
関税などの特例措置 など）

4. テーマ授業の内容

(1) 国際理解

A組「基地を知る」

ねらい；在日米軍基地について基本的事実を知  
り、そこから国際社会を考える。

展開；導入－沖縄クイズ－

沖縄の軍事基地はどれくらいあるか？

「ゾウのオリ」は日本のどこにあるか？

クイズの解答解説、米軍基地の実態を紹介  
自衛隊の是非

B組「A Military Base」

ねらい；沖縄の中の日本とアメリカ

－基地問題からの問題提起－

人々の苦しみやアメリカ側の意見を取  
り上げて難しいことを優しくアプローチ

展開；「A Military Base」の意味説明

コント「フェイス トゥ フェイス」

この分野に取り組んだ動機

ビデオ上映「遙かなる甲子園」

漫画「遙かなる甲子園」（プリント）

〈資料1〉 学習指導要領

1996/6

マ — マ 授業学習指導案

高校2年 総合人間科

学年テーマ : 「国際理解・人権・平和」

命題 —— 沖縄の心から平和を学ぶ

マ — マ 「 A military base 」

メンバー 2年B組 (指導教官 平本公)  
 神谷 辰谷  
 堀 ミツロ  
 宮野

本時のねらい: 難しい事を やさしく アプローチ

指導過程

時間	授業項目(担当者)	授業内容 / 授業展開の留意点	事前準備
5分	あいさつと司会進行 (小沢)	「 A military base 」の意味を分かりやすく説明する。	メモ
2分	この分野に取り組んだ動機 (辰谷)	ぼつりしゃべる、焦点をぼつりさせる	
7分	ビデオの上映 (神谷)	資料の提示を要領よく (ビデオの解説)	ビデオ
8分	漫画の説明 (堀・宮野)	「ぼつりなる甲子園」を使って沖縄基地問題を提示する。印刷して配布するとともに一部内容を紹介全体について手短かにわかり易く解説	まんがをまとめた紙 全頁分
3分	知識についての新聞記事を使って基地の説明 (辰谷)	資料配布 (感想を含めて)	
3分	米軍基地に入った感想 (ミツロ)	山田・仲田両先生の話をまとめる。基地内の色んな施設があるということの説明。去年に基地に入った先輩の感想を語る。	両先生の感想をまとめておいた紙の一枚
2分	まとめ (小沢)		

1996/6

マ — マ 授業学習指導案

高校2年 総合人間科

学年テーマ : 「国際理解・人権・平和」

命題 —— 沖縄の心から平和を学ぶ

マ — マ 「民族差別は?」

メンバー 2年A組 (指導教官 丸山 正)  
 中瀬 悠美 加藤 三奈 上原 倉奈  
 平西 記子 高見沢 慶子 森田 真弓  
 澤田 麻衣

本時のねらい: 学年テーマである「国際理解・人権・平和」の根本にあるものを「民族間の相互理解」であることを考え、初中でその問題と対応している点、差別 について 考察を深める。

指導過程

時間	授業項目(担当者)	授業内容 / 授業展開の留意点	事前準備
	導入 (溝口)	・差別の項目を提示	プリント テープ
	テーマの発表 (辰谷)	・差別、というテーマを設定し理由、相対性を述べる (上記の通り)	
	活動報告と差別に関するアンケートについて (加藤)	・作成にあたって注意した点 (→ 被害者 高見沢) ・意見を数人は聞く ・結果を示す (→ OHP 森田 真弓) ・感想	プリント作成 基地資料の結果をOHPプリントに。
	差別の事例を挙げる (辰谷・森田)	・「マヤゴリ」の事件 (人権試験の制度 (→ 資料をOHPに)) ・導入と差別の項目を流した理由を述べる ・差別の感想と今後の目標を述べる	資料用紙
	まとめ		

アンケートについて

あなたが結核するに当たって次のことは気にしますか?  
 気にする 5人 5人 5人 5人 5人 5人  
 少し気にする 6人 9人 9人 9人 9人 9人  
 あまり気にしない 14人 16人 16人 16人 16人 16人  
 全く気にしない 14人 9人 9人 9人 9人 9人

現在この国の在日外国人が多いと思うか?  
 イギリス → 14人 アメリカ → 4人  
 朝鮮 → 7人 フランス → 9人  
 韓国 → 5人 その他 フィリピン 18人  
 ポルトガルなど 20人

＜考察＞  
 ・心の差別についてほぼ5割通りだった。みんなの共通の意見が得られたと思う (多数)  
 ・「在日外国人」について、自分たちは差別の中に強制されてきた経験が、韓国人の主張を聞いて聞いたが、得られた回答と比べると、在日側が差別を受けているという印象が多数であった。  
 ・そのための準備がないことに対する意見も「一時的にきいていただけ」という考えのものと回答であると考えられる。

〈資料2〉生徒作成の授業プリント例



中部報告で返す対策と  
急った沖縄県知事

4月16日付

橋本首相 モーリタ米国防長官 共同会見  
内産の骨子 (4月12日 9時)

- 普天間飛行場を今後5~7年で  
全面返還。
- 返還に伴い 一部機庫と嘉手納飛行  
場に転転 転転。また 岩国に空中格納  
部隊を転転し 岩国の川内7-部隊を米国内  
基地に転転。

C組3班  
平和班  
担当 谷の

五月一日付  
差地と、いふのバイは  
誰も欲しくはない。



風刺画に見る  
沖繩と日本  
(中日新聞より)

緊急時の輝の(日本)施設利用・開し  
及び共同研究。  
- 今回の急送事項を5日 日本空軍保障  
協議会が決定 中間報告に盛り込む。

今日もおおしの龍太郎君、大田のおしさん  
に世話をしてもらっているかと、ついなたら  
沖縄地国のおおしは解決できるか。

5月4日付



4月17日付  
アメリカ国将軍の7月11日  
公は 日本国を訪問し かの  
地の元首 龍太郎君を従えて  
花見に参り出した。



クリントンの花見  
二橋聖基

5月4日付



剣道五段の龍太郎、アメリカ師範の  
お戸科にて 竹刀を真剣に持ちかへて  
せせと稽古に励んでいる。



防衛強化 米からの贈  
龍太郎 正明



岩国 嘉手納飛行場  
普天間飛行場  
普天間飛行場  
普天間飛行場

4月30日付  
橋本政権御用達のハシロ7電配便は  
廃棄した普天間から 米軍の部隊とそれら  
に伴う諸々の問題も一緒に一つのお荷物  
として運送する。

ロックから探る若者文化

文化とは何か?

『文芸』 -- 人類自ら自然に手を加え、築きあげてきた有形 無形の全体、  
衣・食・住をはじめ、技術や学問、芸術、道徳、宗教などの生  
活形成の様式と内容を含む。(一一自然)

私達5班が何故このテーマにしたか!

はじめに、文化の中から何を取り上げるか話し合ったところ「音楽」に決まり、さらに  
その「音楽」の中から身近にあるロックを取り上げました。  
そのロックから何か探れるかと話し合った結果、「ロック」から若者文化が探れるので  
はと想ってこのテーマにしました。

『ロック』

「ロック」とは、1960年代に起こった大きな世界規模の社会変動に対して変革を求  
める若い世代のライフスタイルと共に生まれた音楽のことです。日本にはプレスリー、ビ  
ートルズ等から入ってきた。

×凡1 ニグロ(アフリカの原住民)の音楽⇒クラシック⇒ブルース⇒R&B⇒  
ロックンロール⇒ロック

辞書によると、『音楽形式としてのロックはさまざま多彩な変異の幅を持つ。実際問題  
として、それを統一したスタイルとして描き出すことはほとんど不可能に近い。』と書か  
れているほど幅の広い音楽です。

(ロックに影響を与えた先行音楽)  
ロックンロール(ロックとロックンロールは違う)、リズム・アンド・ブ  
ルース、ブルース、ジャズ、ポプス、カントリー音楽、フォークソング、  
各民族音楽、クラシック(ロックンロール)

ではこれはと広範囲におたる音楽かなぞ1960年からロックというひとつのジャンル  
にまとまってきたのわかりますか?それは既成文化(もうすでに出来上がってしまっ  
ている文化のこと)に対しての対抗文化的性格が強かったからです。言い換えれば、社会に  
対して強い不満があり、今までの古い考え・文化を変えようと思っていた若者達(作り  
上げた音楽がロックなのです)。(反社会的行動だった)  
1から本来ロックとは若者達の心の叫びを歌ったものなのです。

皆さんは「ロック」と「ロックンロール」からかっものたということを知ってしまし  
たか?  
「ロックンロール」は「ロック」の元のよなもの、この「ロックンロール」を  
電気を使って音を入きくしたりしてもと派手にしたものが「ロック」なのです。

- 年代別に見た世界の音楽に関する出来事
- 1950年代  
プレスリー(ラビ・ベネンタ)などのロカビリー全盛期  
戦後後に米軍からR&Bとジャズ、ブルースが日本にも流入  
「50'sロックンロール時代」
  - 1960年代  
ビートルズの出現 明確なメッセージ性を持つ音楽  
例えば、反戦歌とか人種差別に関する音楽  
世界の歌手の来日 ロック&フォーク 日本では、平沢昌明と山下敬一郎  
「伝説の60年代」
  - 1970年代  
ライオン&カーペンターズ、カーペンターズ、フォーク全盛期  
次第にメッセージ性がなくなる  
日本では、吉田拓郎、井上陽水、かぐや姫、ユメシロ  
「黄金の70年代」
  - 1980年代  
マイケル・ジャクソンとマドンナなど  
(売れるロック) (商業ベースに合ったロック)  
MTV(ミュージック・テレビジョン)の登場  
「空白の80年代」「伝説の80年代」・マイナスイメージの形
  - 1990年代  
復活ビートルズ、ヒップホップ、セックス・ピストルズ  
個々の若者のライフスタイルにマッチするもの多種多様  
日本では、坂本龍一、小室哲哉、トリカゴなど

- 5 『今日の若者文化の傾向』
- 若者とは  
○年若い人、若人(少年、青年)、若衆(年の若い男子) このように 一般的には男をい  
つららしい。若者は、若い人に限ったことではないと思っ
- 若者から見た若者とは
- Powerのかたまり ●何かに夢中になっている人 ●友達が多くいる
  - いろいろなことに挑戦できる時 ●何をやっても許される ●楽しいとき
- 大人から見た若者とは
- 素直で明るい ●これからの夢、希望がある ●大人を乗り越える力を持っている
  - いろいろなことを知っているか深く考えようとしていない ●なげやり

- から沖縄基地問題を提示する  
 昨年研究旅行での米軍基地訪問の報告から  
 C組「さまざまな角度からみた国際理解」  
 ねらい；国際理解の実態について具体的に考える  
 展開；「国際理解」とは  
 ①日本と外国の比較  
 交通・食・衣服等の生活面での比較  
 ホームステイ体験から  
 ②沖縄の米軍基地  
 基地の移転問題、  
 基地のメリット、デメリット  
 駐留米兵による犯罪  
 国際理解をふまえた平和運動を考える
- (2) 人権  
 A組「人権」  
 ねらい；人権問題とは何か歴史的にとらえ、  
 身近な人権問題について考える  
 展開；「人権」とは何か 思想史から  
 人権宣言  
 具体的な人権問題  
 ①子どもと大人 例・生徒と先生  
 ②同和問題 部落差別について  
 ③いじめ 実態とその対応
- B組「人権—女性の人権から考える」  
 ねらい；「女性の人権無視」(セクハラ、雇用問  
 題)の現状を調べ、今後どうなってい  
 くのか、またどうすべきかを考える  
 展開；テーマ設定の理由  
 事前アンケートから男女の意識の差を提示  
 痴漢について判例と対策  
 男女雇用機会均等法について  
 (社会の対応 職安の求人票から)  
 履歴書の変化(性別や本籍→差別への対応)
- C組「人権」  
 ねらい；人権とは本当はどういうものであるか  
 「人権を守る」の本当の意味を知る  
 展開；人権とは(日本国憲法から)  
 人権侵害の実態  
 ①部落差別—名前、職業、結婚(実話紹介)  
 ②子どもの権利(子どもの権利条約)  
 ③幼児虐待(身体的、心理的、性的虐待)
- (3) 平和  
 A組「集団自決」  
 ねらい；戦場を逃げまわって最後に自殺までし  
 た沖縄の人々の歴史を学ぶ  
 展開；沖縄戦のあらまし (なぜ沖縄なのか)  
 集団自決について  
 その原因と方法(教育と日本軍の強要)  
 生死を分けた二つのガマ  
 B組「当時のアメリカ軍の沖縄への影響」  
 ねらい；米軍が沖縄に上陸したことで沖縄の  
 人々の生活、考え方、生き方がどのよ  
 うに変わったかを学ぶ  
 展開；沖縄戦を通して戦争と平和を考える  
 沖縄についての知識の確認(クイズ)  
 方言、沖縄への差別  
 皇民化教育について  
 明治政府の考え方(教育勅語)  
 沖縄差別から始まった「同化政策」  
 (方言の禁止、戦死者の称賛)  
 “命どう宝”から“お国のために死ぬ”  
 集団自決に至る様子、自決の仕方  
 沖縄戦の経過(米軍の攻撃と人々の避難)
- C組「沖縄からみる平和」  
 ねらい；過去、現在の沖縄と現状から予想される  
 将来の沖縄から平和のあり方を考える  
 展開；動機・理由  
 (平和をキーワードに沖縄の歩みを考える)  
 沖縄戦に至るアジア太平洋戦争の経緯  
 戦争の残虐性  
 沖縄戦に関するアメリカへの疑問  
 沖縄戦に関する日本への疑問  
 日米安全保障条約  
 安保とは何か、その背景  
 沖縄軍事の現状 米軍、自衛隊と沖縄  
 米兵の犯罪  
 平和とは 日米間で揺れる沖縄(風刺画)
- (4) 民族  
 A組「差別ってナンデスカ」  
 ねらい；学年テーマである「国際理解・人権・  
 平和」の根本にあるものは「民族間の  
 相互理解」であると考え、その中でも  
 問題とされることの多い差別について  
 その実態を探る  
 展開；都はるみの唄を流す(導入)  
 授業テーマについて  
 私達の差別意識(アンケート結果より)  
 各自の感想、意見  
 在日韓国、朝鮮人問題の差別実態(資料)  
 朝鮮高級学校に対する大学受験資格差別  
 ティマ・チョゴリへの偏見と嫌がらせ  
 高校体育連盟への加入と試合  
 なぜ都はるみの唄を流したのか  
 レコード大賞でのクレームと国籍問題

B組「民族／アイヌ、和人、琉球人の違い」

ねらい；日本の民族問題としてアイヌと和人と琉球人を考える

展開；日本人の顔の特徴の写真一覧（導入）  
各自自分の顔の分類（モデル／授業者）  
日本の民族問題（民族の悲痛を訴える）  
アイヌの問題 歴史と現在  
アイヌシモリ民族舞踏音楽  
和人 その特徴 朝鮮半島とのつながり  
琉球 沖縄の歴史と文化  
東南アジアとのつながり  
三民族の相違と共通点

展開；自然の定義

3つの視点から現状を見つめ未来を考える

- ①動物 “クジラからみる自然”  
－保護か利用か－  
捕鯨の是非をめぐる現状を中心に  
鯨と人間の関係を考える
- ②植物 “WOODS 森林を考える”  
地球環境にとって森林のもつ意味  
森林伐採と地球温暖化
- ③人間 “リゾート開発をめぐる”  
リゾートとは？  
例：ゴルフ場汚染  
人間の未来は？

(5) 自然

A組「リゾート開発

－何が正しく何が間違っているのか」

ねらい；リゾート開発に焦点を当て、自然開発か保護かを両陣営からメリット、デメリットを提示し、クラス全体に問いかける

展開；授業のねらいと進め方  
リゾート法とリゾートについて  
リゾート開発賛成派から（メリット）  
環境との調和（森林破壊と地球温暖化）  
地方の活性化（経済効果、過疎化対策）  
文明生活の利便さの追究（交通、物質）  
具体例  
リゾート開発反対派から（デメリット）  
恐るべしゴルフ場汚染（農業被害）  
自然破壊の現状  
リゾート開発の経済破綻  
全体討議

B組「生物の絶滅と人間の関わり」

ねらい；自然環境の現状と人間の関わりを生物の絶滅の歴史から考える  
生物の絶滅を防ぐ方法は？

展開；具体例から一般論へ  
絶滅の危機にある日本の生物（具体例）  
トキとニホンカワウソ  
その原因と人間活動

絶滅しない生物

ゴキブリ

生物の絶滅と人間との関わり

絶滅の原因－外因説と内因説

これからの自然と人間の関係

C組「自然－これからどうなる？」

ねらい；現在の自然状況から問題を探り問題提起  
人間の自然に対する様々な行いを知り、  
これからの生活スタイルを考える

(6) 文化

B組「食からみる文化」

ねらい；人間の営みすべてが文化であるが、「食」を通してその社会変動に伴う変化を探る

展開；文化の定義（文化班としての意見）  
戦後の食生活の変化  
味噌食の変化からみる生活変化  
（味噌の試食）  
戦前戦後の食文化  
高度経済成長と食文化  
異文化との接触による日本伝統文化の変化

C組「ロックから探る若者文化」

ねらい；文化とは何かを音楽、その中でも身近にある「ロック」を取り上げ探る

展開；文化の定義  
授業テーマについて  
ロックの定義 その歴史的背景  
今時の若者の傾向  
3つの視点（若者、大人、班員）から  
アイデンティティーの希薄、欧米化  
班員のアイデンティティーに対する意見  
民族的アイデンティティーの時代変容  
沖縄のアイデンティティー  
本土と沖縄音楽の比較（琉球音階）  
問題提起 文化の変容をどうとらえるか？

(7) 女性

A組「女性」

ねらい；日本とアメリカの性差別問題を比較して、  
取扱い方や保障の違いを調べ、今後日本の性差別問題がどうあるべきかを考える

展開；授業のテーマについて

米国三菱セクハラ事件  
事件の内容説明と動向



アメリカでの扱われ方 (新聞、雑誌)  
 保障問題  
 沖縄の米兵による性犯罪  
 過去の事件例  
 日米安全保障条約について

(8) 産業

C組「産業-観光(リゾート)開発」  
 ねらい；沖縄のリゾートの現状、石垣島空港建設と自然破壊から沖縄を考える  
 展開；リゾートの基本的概念  
 リゾート法、リゾート倶楽部  
 沖縄のリゾートの現状  
 ホテルの設置場所、海洋博の跡地  
 海外との比較  
 空港建設と自然破壊  
 中部新国際空港と石垣島新空港  
 メリットとデメリット  
 (常滑沖の漁業、白保のサンゴ)

5. 授業方法

生徒が生徒に問題提起するという形態は、生徒が積極的に授業に参加する上では勿論のこと、生徒が授業を創造していく上でも、大いに効果があった。また、授業を受ける側の生徒にとっても、教師が講義するよりも自らの問題としてとらえ易かった。取り上げる教材やその切り口も生徒の斬新な視点があり、より身近で興味関心が持てるものが目についた。(例；人権チームの痴漢、国際理解チームの漫画やビデオ、文化チームのロックなど)

学習指導案を作る過程でのチーム内でのディスカッションや教材研究は、チームによる格差はあるもののかなり熱心に取り組んだ。事前にクラス全体にアンケートを実施したり、書物・文献だけでなく身軽に校外へ聞き取り調査などに出かけ昨年度の個人研究での研究方法の習得の成果が感じられた。準備された教材も視覚的に訴える工夫が多くのチームでみられた。写真、資料などをプレゼンターで提示したり、ビデオ、実物、実演ありで、多くのものが教室に持ち込まれた。授業プリントもグラフ、新聞記事、風刺画、アンケート結果と見せる、読ませる工夫がされた。味噌の試食、音楽(民族チームでの都はるみ、アイヌシモリ民族舞踏音楽、文化チームの沖縄ロックやバイオリン演奏)と授業に楽しく取り組もうという姿勢が随所にみられた。

授業の形態においても、単なる講義形式ではなく、生徒参加型のものが多かった。クイズ、ディベートなどが試みられ、聞き手の評価を得た。テーマ授業

を進めるにあたって最初に、目的は多くの知識を教えることではなく、この授業をきっかけにテーマの持つ多くの問題を認識させ、ともにこれから学んでいく姿勢を打ち出すことであると生徒達には伝えた。その意図はおおむね達成され、ほとんどのチームで問題提起型の授業となった。

ただし、研究発表と授業の違いが最後までつかめないまま終わった観は否めない。大きなテーマのもとでの授業だっただけに、「何を」「どのように」取り上げるのかがチームによっては明確でないまま事実の紹介だけで問題提起に至らない部分もあった。チーム内でディスカッションを繰り返し授業案を練ったところは、それだけテーマに対する認識が深まったが、最初に役割分担を決め各自の作業としたチームでは問題意識の甘さが目立った。また、授業を受ける側の興味関心を引くことに重きを置き、授業方法の工夫はあるものの内容の深まりに不満が残るものもあった。

6. 授業の評価

(1) 指導教官からの評価

<テーマについて>

今回のテーマ授業は学年テーマを中心に教師側の意向と生徒の希望調査から決定した。

生徒一人一人に学年テーマをしっかりと認識させる上で、抽象的であっても「国際理解」「人権」「平和」は欠かせないと考え、この3つについては全クラスで実施した。しかし、このテーマを希望した生徒は少なく、第2希望、第3希望で振り分けられたものが多くなった。そのため多少意欲の低さが感じられ、積極的に取り組むまでには至らなかったところもあった。

一方人気の高かったテーマでは、各自の趣味嗜好に走る、興味本位、低次元、問題意識の欠落…、といった批判がないわけではなかったが、意欲的で問題の掘り下げ方にも考察にも個性があった。

どのテーマも大きなものでいかようにも展開できるので、授業準備の最初の段階での指導が大きな意味を持つ。すべてのテーマで学年テーマを念頭において、内容構成を示唆する必要がある。また、互いにオーバーラップする部分は、授業指導の前に指導教官で打ち合わせておく必要がある。

今回のテーマ授業では、沖縄研究旅行への問題提起と導入は意識したものの、沖縄にこだわらず広くテーマをとらえていくことを目的にしていた。しかし、その目的がしっかりと生徒に認識されておらず、他チームの授業に対して、「なぜ沖縄が出てこないのか？」とか、逆に「沖縄にはふれないはずが沖縄のことばかりであった」という評価もみられた。授業

の目的と方法論について事前にしっかり生徒に浸透させておきべきであった。指導教官側の方にも、意思統一が十分であったとは言えない部分があった。

#### <チーム・ティーチング>

チーム内での問題意識の差と食い違いは、最大公約数で落ち着くためにどうしても問題追究に甘さがみられた。リーダーシップを発揮する生徒がいない場合には特に意思統一がなされないままに、事実の提示で終始したところもある。

しかし、多くのチームでは何度も会合を持ち、指導の方法、内容を考え、自分達の実態を調査して問題提起していこうという姿勢がみられた。意見の対立を見るほどに日頃語り合う機会のない仲間とのまじめなディスカッションは、実に有意義な時間であった。

#### <プレゼンテーション>

実際の授業の場面では、準備段階と比較して、まだまだ未熟な部分が目立った。授業内容や方法以外に、発表技術のトレーニングが必要であろう。生徒自身の自己評価や相互評価でも一番多く指摘されたことであるが、「声が小さい」「原稿の棒読み」「下を見て話す」など経験の不足から人前で話すことに苦労した。

また、30分の授業であったが、時間配分がうまくいかなかったチームもあった。

これまでの生徒活動の中では、リーダーとなる生徒が司会、議長、発表といった場面に立っていたが、このテーマ授業ではほぼ全員が授業者となったため、これまであまり人前に立つことのなかったものかなりのプレッシャーも感じていた。チームでの活動であったため、仲間同士で補っていたが、より多くの生徒に経験を積ませることで集団全体のプレゼンテーション能力を向上させることが今後の課題の一つである。

#### <教師の指導>

教師の指導をどこまでするか、が難しい。事前のチームラーニングをきちんとする必要がある。

指導教官とのチームティーチングということで教師が話をしたり、まとめる場面もあったが、生徒達からみると「これは生徒がする授業であるので、先生が関わりすぎ。」といった声も聞かれた。このテーマ授業を終えて、ディベートなど研究旅行にむけての学習に取り組む段階では「教師は指導教官ではなく、オブザーバーとして生徒の活動を見守る形にしてほしい」という要望も出され、自分達の手で授業を築くんだという意識は大きく成長した。

#### (2) 生徒の自己評価・相互評価

各授業の実施にあたっては、自己評価と相互評価を記述式で行った。その中からいくつかを紹介する。

#### <授業全体への感想>

全体を通して、それぞれの班によって授業の形式が違っていたりしてとてもユニークだと思った。他の人の価値観を知ることができた。重要なチームティーチングであったと思います。

「国際理解」について学ぶことはこれからの国際社会を生きていく上で多に役立ち、多くの国との交流などいろいろな点において必要になっていくと思われる。私たちは沖縄の基地問題について調べることによって今まで他人事に思っていたことが、とても身近に感じられたし、いろいろなことを学んで進んで諸問題に関心をもつことができるようになっていくと思う。基地問題はその典型としてみんなしっかり取り組めたので、良い結果が得られた。これからはみんな視野を広く持って関心を持ち、考え、進んで参加していくことが基地問題に大きな変化をもたらしていくと思う。

緊張のあまり自分で何をいっているのか分からず情けない発表に終わってしまった。時間がなくて早く早くと思っていたら1分足らずの短い発表になってしまった。

自分ではせいっぱいやったつもりです。客観的に自分を見ることはできないので、授業を聞いたみんながどんな気持ちになったかが心配です。(少しでも感銘を受けてくれたらこの上ない幸せです。)

前もって用意した紙をただひたすら読んだだけで、それ以上のことは何もできなかった。もう二度とこんなことはやりたくないです。

私には「部落差別」が良く分からない。そもそも部落というものができたのはなぜ？そしてなぜ今もそれが続いているの？同じ人間に変わりがないのに。差別することが一般化されていることもとても問題だと思う。この間部落差別についてのデモがあると聞いた。悲しいことにそれだけ本当に苦労しているんだと思う。一人一人が人を思いやればそんなに悲しいことしなはずなのに。

研究が薄く、突っ込まれると困った。みんなが質問してくれたのは良かったが、知識不足で答えられなかった。

時間が余ってしまった。全体を通してのリハーサルをやるべきだった。

質問があんなに出るとは思わなかったので驚いた。まわりの人に「いい授業だったね」っていわれてうれしかった。司会がとっても良かったんじゃないかな。

#### <自己評価・相互評価の具体例>評価プリントからC組「平和」

内容の感想

- ・沖縄の米軍基地についての様々な問題点が分かって、考えさせられました。人と人は仲が良くても国と国が仲が良いとは言えなかったり。何でそんなに自国に得をさせようと思うのかな？
- ・結構難しい内容の話を分かりやすく説明しようとしていた。
- ・今一番話題になっている問題だけに皆もまじめに聞いていた。

授業評価

<良かった点>

- ・きちんと資料が作ってあって各自もきちんと理解していて興味深い話だった点良かった。
- ・それぞれ発表の仕方に個性がでていた。(2名)
- ・富永君の言葉の使い方がおもしろかった、高山さんのゆっくりしたしゃべりが聞きやすかった、谷口君のプリントはおもしろくて分かりやすかった。
- ・資料を多く用意していた。資料が絵とかグラフで短時間で良く理解できた。(11名)
- ・グループみんながいろいろ分担していたところが良かった。(2名)
- ・風刺画がおもしろかった。言葉を見るよりも絵を見た方が分かりやすくて良かった。(5名)
- ・毎日新聞を見て研究してきたのが良く分かる。
- ・声が大きく聞き易かった。
- ・構成が良かった。時間配分がよく、しっかりまとまっていた。(4名)
- ・発表者全員が堂々としていたところがよい。お見事！
- ・自分の意見にしっかりと自信を持っている！自分の意見が入っている。(2名)
- ・原稿を見ず前を向いて発表している人の発表は聞きやすかった。
- ・しっかり研究していた事が良く分かる。とても良く研究してあってスゴイ。くわしい。(8名)
- ・話し方がうまい。落ちついていて。(2名)
- ・流れがスムーズだった。(2名)
- ・内容がはっきりしていて問題提起もうまかった。説明が分かりやすい。(2名)

<改善すべき点>

- ・プリントが多く、2、3枚にまとめた方がいい。プリントが多すぎて目が通せない。(9名)
- ・プリント類は発表を始める前に配った方がいい。(発表が途中で途切れてしまう)
- ・文をそのまま読む発表は改善した方がいい。(2名)
- ・要点を押さえた方がだらだらしない方がいいと思う。

- ・各発表のつながり。
- ・発表する人を2～3人に減らした方がもっとスムーズにできたと思う。
- ・説明が少し難しかった。内容が少し難しかった。内容がかたい。(9名)
- ・プリントの内容(はじめの2枚と新聞記事)をもう少し詳しく説明するといい。
- ・最後のまとめが足りない。自分の感じたことや意見がもっとあれば良かった。(2名)
- ・発表の終わり方が中途半端なものがあった。
- ・もう少しゆっくり、はっきりしゃべってくれたらもっと理解しやすかったと思う。(2名)
- ・発言の時に発言しないグループ員は静かにしていた方がよい。

授業者の自己評価

- ・一方的に話しすぎた。どもった。
- ・プリントは早く渡した方が良かった。
- ・まじめに取り組んだ点に関してはただ環境保護を訴えるだけだったり、本当には存在しない人権を美しい言葉で飾ったりするよりしっかりしていたと断言できる。
- ・プリント類はしっかり作ったがそれに対する説明の不備が目立った。沖縄戦に関しては皆うんざりだったようだし、安保も同じ。米軍基地にしても早口でまくしたてたため要点が聞いた人の頭にきちんと入らなかったかも知れない。
- ・台詞は聞いておいた方が良かった。原稿の不備。
- ・三段構成は良かった。

C組「文化」ーロックから探る若者文化ー

内容の感想

- ・文化は民族、国家にとって最大級の個性である。それを愛し、守らなければならない。伝統や文化を守ることができない国、民族はすなわち独立を失うのだ。
- ・ふだん何気なく聞いている音楽についてここまで深く考えたことがなかったので、なんかこうやって改めて考えてみるとそれぞれの時代の若者の考えが少し分かった気がした。
- ・文化は伝えなくても伝わるのか？本当に unnecessaryなものばかりなのか？それは違うと思う。今までも誰かが何らかの努力をし、文化を伝えてきたのではないのか？それを皆が少しでも興味を持ってすすすることで、文化は伝わっていくのではないかと思う。
- ・日本のポップスはカス。アメリカの猿まねをしてビートとサウンド中心(だいたい日本人の持っているリズムではない)の音楽だが、いかんせん

歌手がいらない。サウンドに負けない声とリズムにぴったりあったメロディーを持った人でなければビートとサウンドの曲は歌えない。代表的なのがコムプロデュースの曲。ワンパターンで聴けたものではない。それと日本語は合わない。ラップを日本語でやってもカッコ悪い。結論→聴くなら洋楽、クラシック。カラオケで歌うなら簡単な日本の曲。

- ・たんなる意見だけど、若者に先入観はあると思う。
- ・プリントの内容を見てもすごく時間をかけて調べてこの日のために頑張ってきたなと思った。
- ・日本の文化がないと言っていたが、そうではないと思う。
- ・歌がなんか悲しげのものが多くてちょっと胸にジーンときた。

#### 授業評価

##### <良かった点>

- ・音楽を流したのがいい感じだった。文化ならではできること。音楽が多用されイメージしやすく親しみやすかった。音楽が効果的。バイオリンが上手だった。(28名)
- ・みんなの興味を引く内容でおもしろかった。内容が身近で30分あきなかった。(5名)
- ・はじめに文化とは何かを考えた上でロックというテーマを選んでいるところ。(2名)
- ・ロックから文化を見事に説明できている。
- ・プリントが分かりやすかった。(3名)
- ・疑問、意見の提示。班内で対立意見を出し、さまざまな立場を明らかにした。(3名)
- ・自分達の考えがよく取り入れてある。いっぱい話し合ったということがよく分かった。(2名)
- ・事前の準備がきちんとしていて、内容も盛りだくさんだった。
- ・すごく考えさせられた。
- ・秋山さんの1対1で話しかけているような感じがとても聞きやすかった。
- ・発表者がはきはきしていた。
- ・最初から最後まで全体的の流れがすごくよかった。
- ・何度も1つのことを繰り返し繰り返し考えてやっと答が出たというのが発表からもプリントからもよく分かった。
- ・時間をかけじっくりまとめてあった。
- ・沖縄の文化についてすごく調べてあってよかった。

##### <改善すべき点>

- ・話をする人が限られていたので、もっとみんな

が話せるともっと良かった。

- ・もう少し「話」を考えると良い。
- ・最後に曲を流したのはイメージがわいてよかったが、話の間中流れていたの聞き取りにくかった。(2名)
- ・文化の多様性を指摘しながら、若者文化を限定し客観性が失われていた。
- ・声が小さくて聞き取りにくいところがあった。(4名)
- ・時間が長かった。まとまりがよくなく時間がかなり過ぎ。(3名)
- ・ほとんど一人の人が話していた。
- ・話がよく分からなかった。(2名)
- ・聞き手の意見を聞いてみるのもいいと思う。
- ・いろいろな方向に手を出したのはいいが、中途半端に終わってしまっていたのでは？もう少ししぼった方がよかったのでは。
- ・文化というより音楽について、若者だけの文化しか調べていない。
- ・本当にどの班にもいえることだと思うが、発表者達の弁舌がはきはきしている人とでれーとしている人の違いが激しい。
- ・最後に何が言いたいのかが、よく分からなかった。
- ・BGMを使ったのはいいが、音が小さくてほとんど聞こえなかった。

#### 授業者の自己評価

- ・始まるまでは時間配分がすごく心配だったけど、30分かけて発表できてよかった。ロック音楽からどうして沖縄につながっていくのか私自身も相当悩んだけど、バリ島の音階から沖縄ロックがきているということは私も今回の研究で初めて知った。西洋と本土と沖縄の音階の違いを実演して比較したのは世界の音楽の違いが分かってなかなかよかったと思う。しかしもう一つ欲をいえば、実際何か一つの曲を沖縄音階に変えて演奏してみるともっと違いが分かったと思った。最後の自分のバイオリンは練習なしでやったからもう少し練習しておけばよかった(暗譜するぐらいには)。
- ・文化について賛成反対の両方の意見を出し合い比較することで言いたいことを伝えることができたと思う。
- ・もっと早くから少しずつ準備をすることが大切なのだった。みんなに分かりやすく説明するのが大変だった。実際のところ理解するのは難しかったと思うが、自分達の身近にある日本文化についてもう一度考えてみるきっかけと

なればいいなと思う。

- ・反省…ほとんど出れなかったのにみんなこんなすごい発表を作ってて驚きました。同じ班なのに恥ずかしかったです。
- ・段取りが悪かった。
- ・教室にコンセントが1つしかないことに今日気がついたのであわただしくなりました。
- ・すごく準備に時間を費やしたと思う。資料を作っていく上ですごくたくさんしたことについて話した。授業では思うように進めていけなかった。終わってから「あれもこれも言いたかったのに…」とたくさん後悔した。やっぱり人に伝えることって難しい。今回の授業…(授業準備かな) やっててすごく自分に+になったと思う。

## 7. 終わりに

- 「どのチームもちゃんと準備し真剣に取り組めた。」  
 「でも、資料そのままっていうところもあったよ。」  
 「教科書がないから何を問題にするかが分からなくてとまどったからね。」  
 「同じテーマでもクラスによって取り上げた内容が違って、教科書がないっていうのもなかなかおもしろかった。」  
 「授業はやっぱり先生の方がうまいから、先生の講義の方が良かったかも知れない。」  
 「そうかなあ。先生の授業はいつものことだから、生徒がやるというのは新鮮だったよ。質問がたくさんでたり。先生とひと味違って楽しめた。」  
 「そう。普通の授業だったら、味噌をなめたり、バイオリン演奏なんていうのはなかった。」  
 「でも、あれは授業かなっていうのもあった。なんか決起集会みたいで、自分達の考えを押しつけてしまう傾向もあった。そのへんは授業としては考え直した方がいいかな。」  
 「とにかく初めてのことだから、やってみないと気づかないことがいろいろあった。誰がどんなことをやるのか、とても興味があった。」  
 「私は、自分が授業をする方にばかり気を取られて

いて、他に人達の授業を聞く方は今一步だったような気がする。」

「それはあるよね。人に伝える意味を考えさせられた。みんなの興味や知識もいろいろだったから、分かってもらう難しさも感じた。」

……………

(研究集録、編集後記より)

昨年度の教官のチームティーチングによるテーマ授業の反省をもとに、今回生徒が自ら授業者となることを試みた。

その成果は、授業を終えた後、生徒自身が「教師は指導教官ではなく、オブザーバーたれ」と発したことに象徴される。上に紹介した研究集録の編集後記にもあるように、生徒自らの「気づき」が、自分達の手で授業の立案、実施、反省する方向へと導いている。とくに、自分達の活動に対する分析、批判などの評価能力には成長がみられた。このテーマ授業以後の沖縄の独立の是非を問うディベートや沖縄研究旅行のグループワークでは、教師はオブザーバーとしての助言や確認はするものの、生徒とほぼ対等な関係でともに学ぶ姿勢をとるように変化がみられた。

さらに、総合人間科のカリキュラムの作成そのものにも生徒が関与することの可能性を探る必要がでてきた。

昨年度の高校1年での個人研究の成果をふまえ、グループ、クラスといった集団での学び合いに発展させることが、今年度の大きな学習目的であったが、そのスタートとして、この生徒と教師のチームティーチングはよいきっかけとなった。チーム内でのディスカッションや打ち合わせを通じてお互いの意思の疎通を図ること、授業をすることで他への情報発信の難しさとおもしろさを経験できたといえる。

最後に生徒の声でこの授業のまとめにしたい。

「集団生活で人間が分かる！」

「人間関係を学ぶ。お互いに啓発し合う一年間だったね。」